

令和 2 (2020) 年度科研費等の審査に係る総括

令和 2 (2020) 年度科研費及び令和元 (2019) 年度国際共同研究加速基金 (帰国発展研究) の日本学術振興会審査担当分の応募受付から審査終了までの総括は以下のとおりである。

本文中の説明部分では以下の略語を用いる。

日本学術振興会：「JSPS」

文部科学省：「文科省」

科学研究費助成事業：「科研費」

新型コロナウイルス感染症：「コロナ」

1. 全体のまとめ

(1) 研究種目ごとの審査結果 (新規応募・採択状況)

① 特別推進研究

応募件数は 105 件 (前年度 106 件)、採択件数は 12 件 (同 12 件) であった。特別推進研究の審査について、コロナの感染拡大等の影響により、一部の審査において中断を余儀なくされ、また、審査委員が一堂に会して行う従前の「集合会議」形式による審査を行うことができず、ヒアリング・合議審査とともに Web 上の会議システムを活用した「Web 会議」形式で実施した。

具体的な審査方法等の詳細は、後述の「4. 新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた対応について」に記載した。

応募件数・採択件数の推移



②基盤研究

「基盤研究」全体での新規応募件数は 60,350 件（前年度 60,225 件）、採択件数は 16,859 件（同 16,931 件）であり、前年度より応募件数は増加し採択件数は減少した。

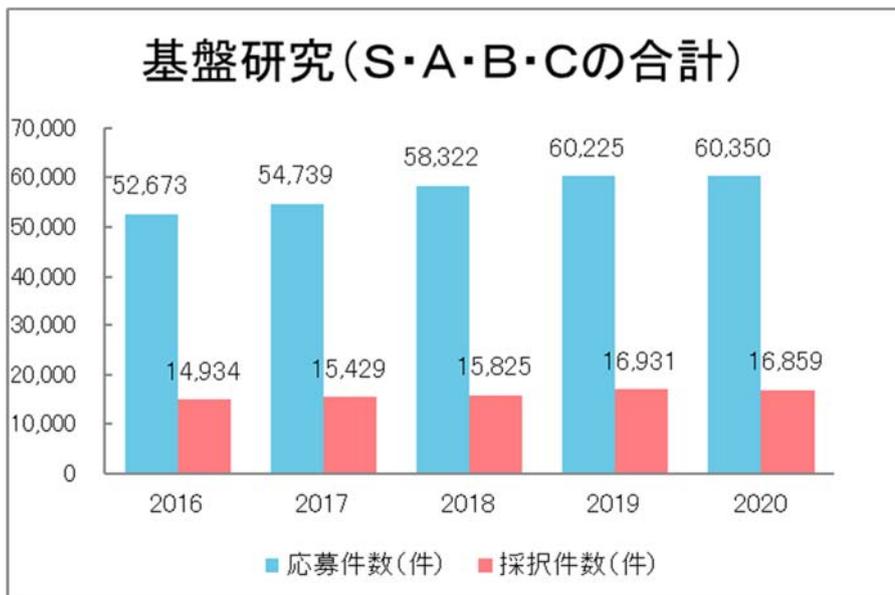
基盤研究全体としては平成 28（2016）年度から令和 2（2020）年度までに応募件数が 7,677 件増加しているが、基盤研究（S・A・B）の応募件数には大きな変化はなく、増加分はほぼ基盤研究（C）の増加分（6,899 件）である。

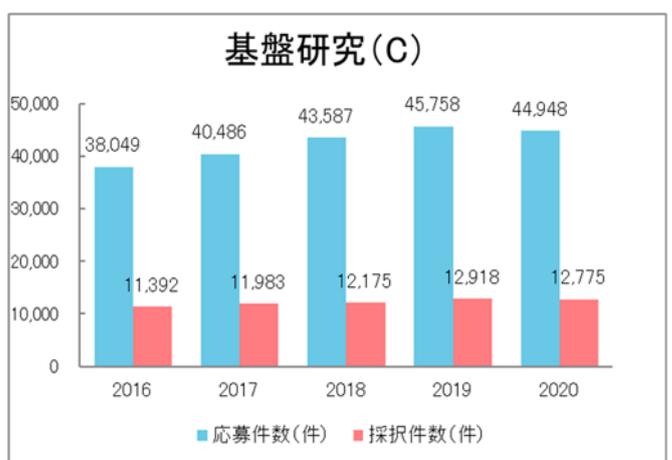
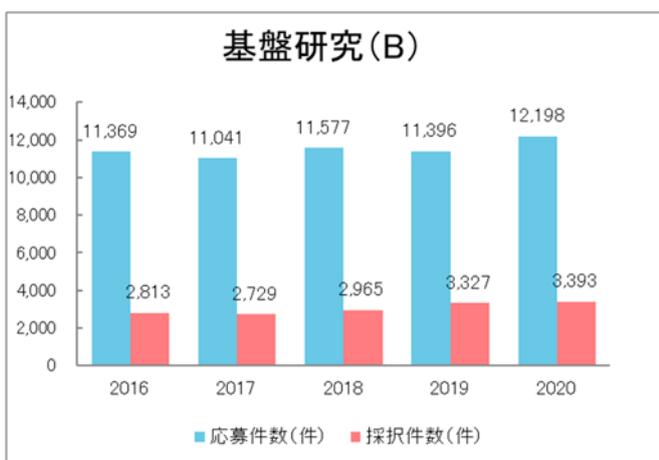
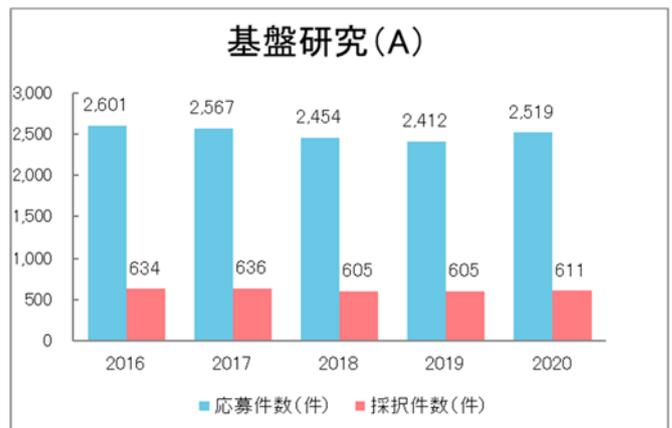
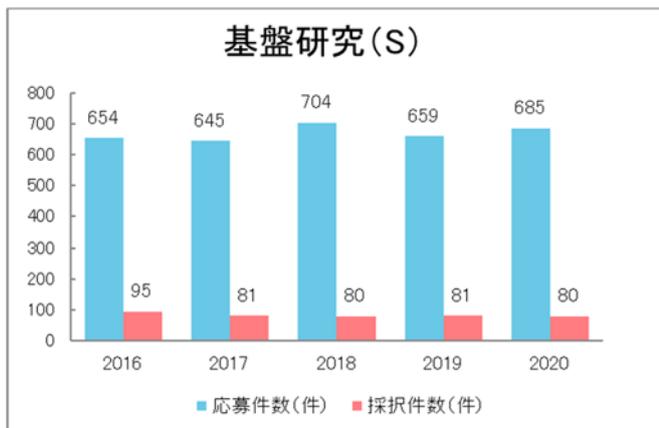
また、各研究種目における応募件数について、基盤研究（S・A・B）はそれぞれ 685 件（前年度 659 件）、2,519 件（同 2,412 件）、12,198 件（同 11,396 件）であり、前年度より増加し、基盤研究（C）は 44,948 件（同 45,758 件）であり、前年度より減少した。特に基盤研究（B）の応募件数が大きく増加しているが、これは、受給回数 2 回目の若手研究と基盤研究（S・A・B）の重複応募制限の緩和、基盤研究（B）と挑戦的研究（開拓）の重複応募・重複受給制限の緩和によるものと考えられる。

なお、基盤研究（S）の審査については、上述の特別推進研究と同様、コロナの感染拡大等の影響により、一部の審査において中断を余儀なくされ、また、審査委員が一堂に会して行う従前の「集合会議」形式による審査を行うことができず、ヒアリング・合議審査ともに Web 上の会議システムを活用した「Web 会議」形式で実施した。

具体的な審査方法等の詳細は、後述の「4. 新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた対応について」に記載した。

応募件数・採択件数の推移





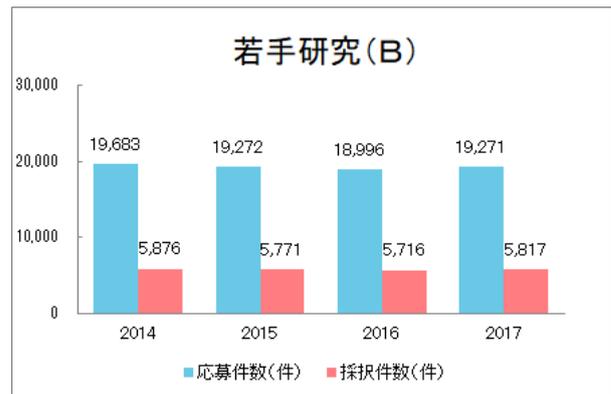
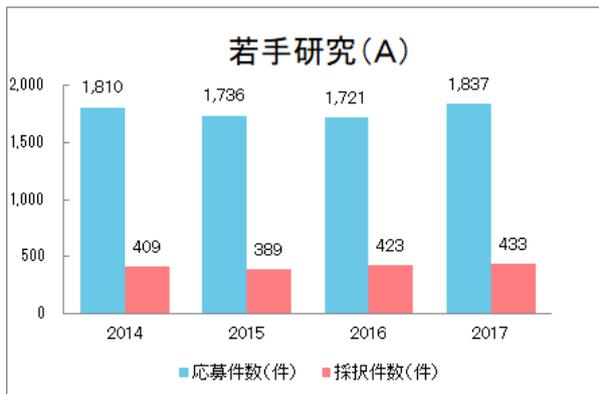
③若手研究

「若手研究」全体での新規応募件数は 18,708 件（前年度 19,590 件）、採択件数は 7,496 件（同 7,831 件）であり、前年度より応募件数・採択件数ともに減少した。令和元(2019)年度応募課題より、採択件数が大幅に増加しているのは、若手研究の予算が拡充されたことによる。今年度の応募に関して、令和 2(2020)年 4 月 1 日までに博士の学位取得後 8 年未満の研究者による応募は 13,146 件、令和 2(2020)年 4 月 1 日までに博士の学位を取得見込みの研究者による応募は 95 件、博士の学位取得後に取得した産前・産後の休暇、育児休業の期間を除くと博士の学位取得後 8 年未満となる研究者による応募は 113 件、39 歳以下の博士の学位未取得の研究者で、経過措置の適用となる研究者による応募は 5,354 件であった。また、採択件数はそれぞれ 5,830 件、34 件、55 件、1,577 件であった。

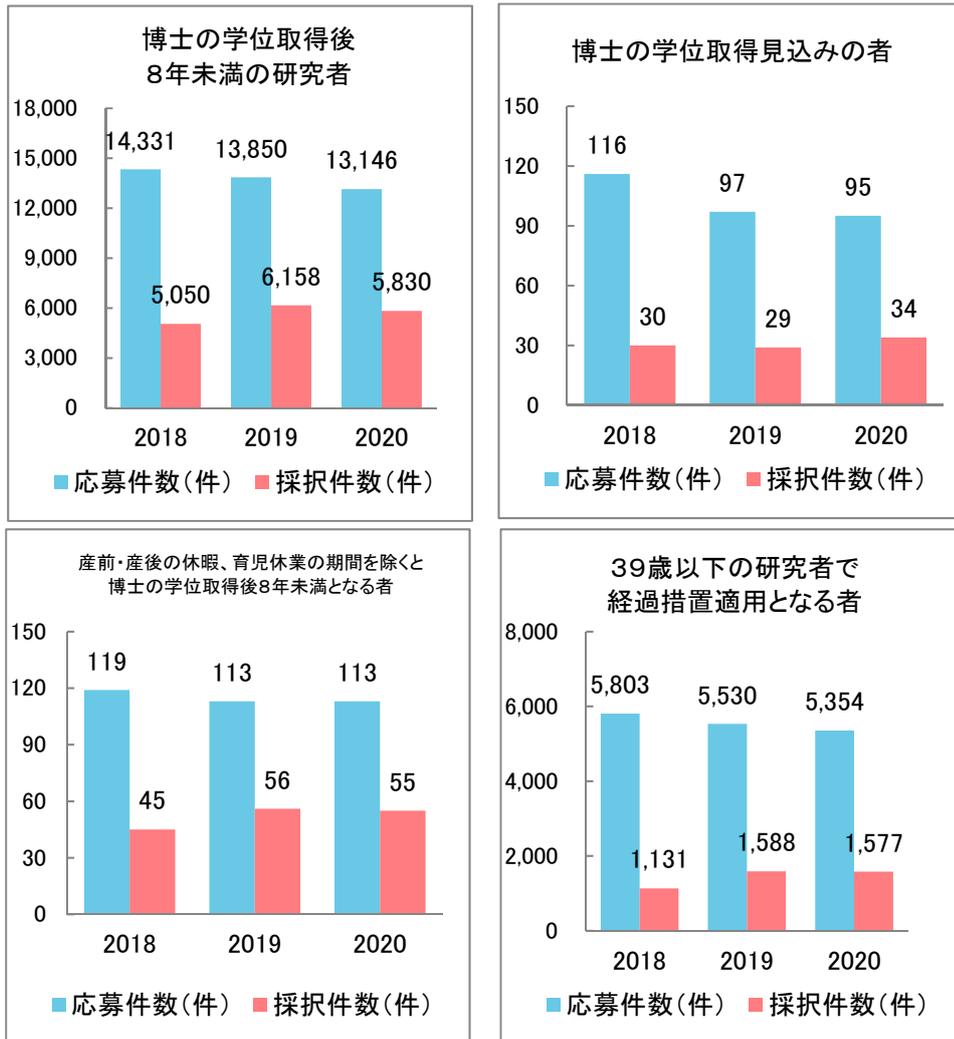
応募件数・採択件数の推移



(参考) 2014年度～2017年度の若手研究(A・B)の応募件数・採択件数の推移



※平成30(2018)年度より、若手研究(A)は公募を停止し若手研究(B)は「若手研究」に名称を変更

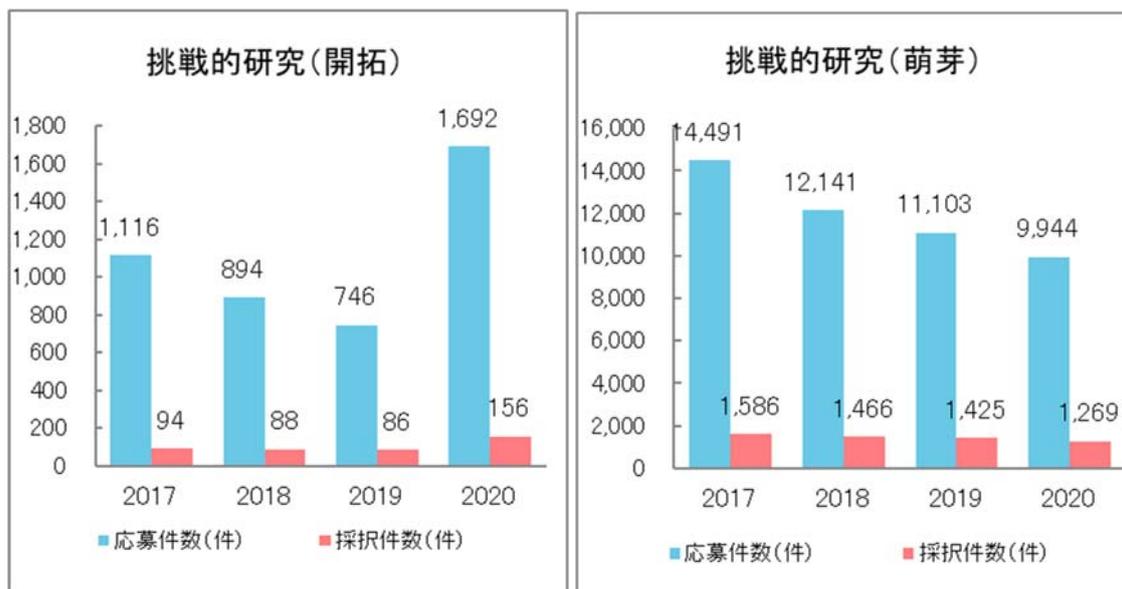


④挑戦的研究

新規応募件数は（開拓）が1,692件（前年度746件）、（萌芽）が9,944件（前年度11,103件）であり、採択件数はそれぞれ156件（前年度86件）、1,269件（前年度1,425件）であった。挑戦的研究（開拓）の応募件数が大幅に増加しているが、これは、基盤研究（B）と挑戦的研究（開拓）の重複応募・重複受給制限の緩和により、積極的な応募が増えたことが要因と考えられる。また本研究種目では応募額を最大限尊重した配分を行った。

挑戦的研究の審査について、コロナの影響のため、当初予定していた合議審査を中止し、2段階の書面審査に切り替えて採択課題の選定を行った。具体的な内容は後述の「4. 新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた対応について」に記載した。

応募件数・採択件数の推移



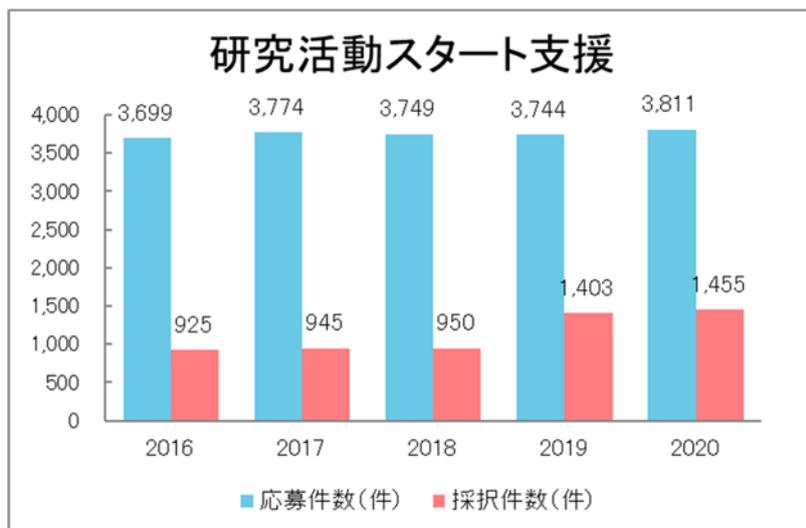
⑤研究活動スタート支援

本研究種目の応募資格は、A) 令和元(2019)年9月に公募を行った研究種目の応募締切日の翌日以降に応募資格を得たため、応募できなかった者及びB) 応募資格は得ていたが、産前産後の休暇又は育児休業を取得していたため、令和元(2019)年9月に公募を行った研究種目に応募できなかった者としている。

応募資格A) の新規応募件数は3,722件(前年度3,646件)、採択件数は1,421件(同1,368件)で、応募資格B) の新規応募件数は89件(前年度98件)、採択件数34件(同35件)となった。

上記を合計すると、令和2(2020)年度に応募件数は3,811件(前年度3,744件)、採択件数は1,455件(同1,403件)であった。

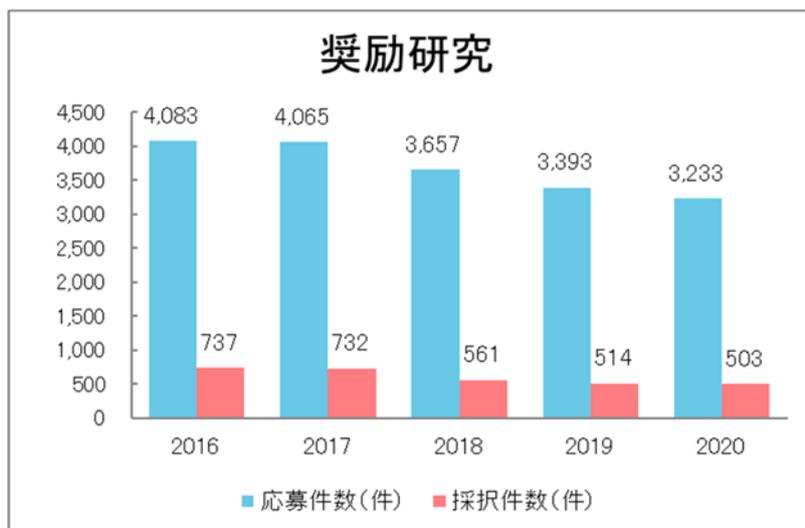
応募件数・採択件数の推移



⑥奨励研究

令和元(2019)年度から紙媒体による応募方式から電子申請システムによる応募方式へと変更した。応募件数は3,233件(前年度3,393件)、採択件数は503件(同514件)であり、前年度より応募件数・採択件数とも減少している。

応募件数・採択件数の推移



⑦研究成果公開促進費(研究成果公開発表、国際情報発信強化、学術図書、データベース)

「研究成果公開促進費(※)」全体での応募件数は1,283件(前年度1,368件)、採択件数は557件(同566件)であった。なお、応募件数及び採択件数の内訳は、「研究成果公開発表」の応募件数485件(前年度516件)、採択件数263件(同267件)、「国際情報発信強化」の応募件数21件(前年度29件)、採択件数8件(同10件)、「学術図書」の応募件数686件(前年度716件)、採択件数252件(同252件)、「データベース」の応募件数91件(前年度107件)、採択件数34件(同37件)であった。

応募件数・採択件数の推移

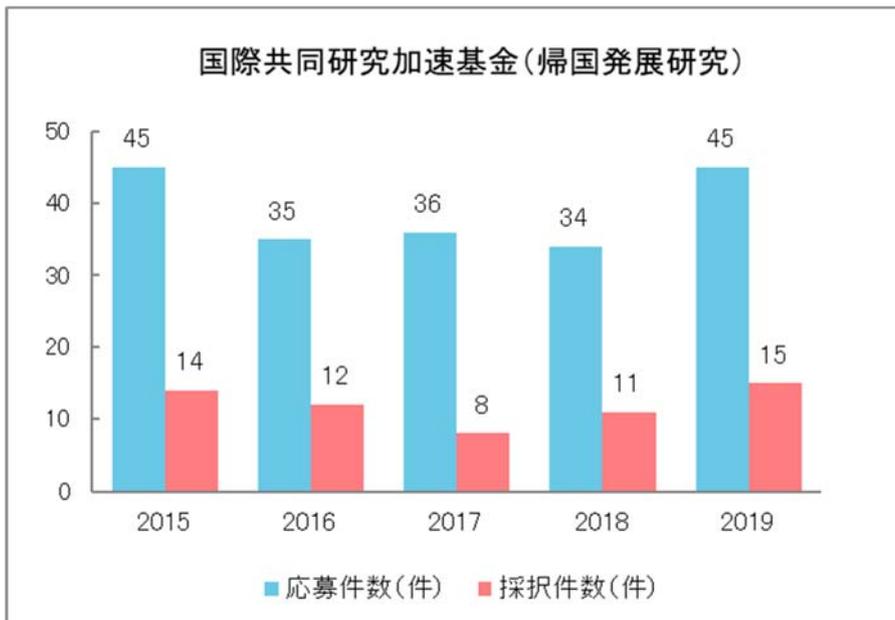


※令和元(2019)年度より、「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI」を研究成果公開促進費(研究成果公开发表)として、公募と審査を実施。

⑧国際共同研究加速基金(帰国発展研究)

「国際共同研究加速基金(帰国発展研究)」の令和元(2019)年9月公募分の応募件数は45件(前年度34件)、採択件数は15件(同11件)であった。

応募件数・採択件数の推移



(2) 主な制度改善等

① 科研費審査システム改革 2018 の着実な実施

平成30(2018)年度より、科研費審査システム改革2018に基づき、新たな審査区分、新たな審査方式の下で審査を行っている。

審査区分については、従来の「系・分野・分科・細目表」を廃止し、「小区分・中区分・大区分」で構成される「科学研究費助成事業 審査区分表」を適用（特別推進研究等の一部研究種目は除く。）した。

審査方式については、特別推進研究、基盤研究（S・A）、国際共同研究加速基金（帰国発展研究）の審査は、書面審査を行った上で、同一の審査委員が合議審査を行う「総合審査」で審査を行った。なお、挑戦的研究については「総合審査」で審査を行う予定であったが、令和2(2020)年度の特例措置として、当初予定していた合議審査を中止し、2段階の書面審査に切り替えて審査を行った。（28ページ参照）さらに、特別推進研究、基盤研究（S）及び国際共同研究加速基金（帰国発展研究）については、専門分野が近い研究者が作成する審査意見書を、書面審査、合議審査で活用するとともに、特別推進研究及び基盤研究（S）ではヒアリングを行った。

基盤研究（B・C）（応募区分「一般」）、若手研究の審査は、書面審査委員が2段階にわたり書面審査を実施する「2段階書面審査」で審査を行った。

令和2(2020)年度からの変更点として、受給回数2回目の「若手研究」と「基盤研究（S・A・B）」との重複応募制限を緩和するとともに、「研究活動スタート支援」と他研究種目との重複受給制限を緩和した。また、より幅広い研究者層の挑戦を促進するため、「挑戦的研究（開拓）」と「基盤研究（B）」との重複応募、受給制限を緩和した。この結果、基盤研究（S・A・B）、研究活動スタート支援の応募件数は増加し、挑戦的研究（開拓）の応募件数は前年度の2倍以上となった。

昨年度の公募から、研究計画調書については、従来の「研究代表者及び研究分担者の研究業績」欄を「応募者の研究遂行能力及び研究環境」欄に変更している。これは、「研究業績」欄に必ずしも研究課題とは関係のない業績を連ねたりすることで、審議過程において応募、審査の本来の在り方を歪めかねない等の問題意識を踏まえた改善であったが、変更の趣旨等が十分に浸透しなかったことを踏まえ、令和2(2020)年度公募より、当該欄において、適切な研究業績を応募者が選択して記載することが可能であることなどを明確にする改善が行われた。

この改善について、審査委員からは「依然として業績の書き方を誤解している応募者が散見される。」「業績が全く書かれていないと審査委員が調べなくてはならず、不便。」との意見があった。

主な研究種目における具体的な状況は以下のとおりであった。

＜総合審査方式＞

○ 特別推進研究、基盤研究（S）

特別推進研究及び基盤研究（S）では広い審査区分（系、大区分）による審査を行っていることから、応募研究課題と専門分野が近い研究者が作成する「審査意見書」を審査時の参考資料として活用している。従前の「審査の着目点」ごとに求めている専門的な意見に加え、令和2（2020）年度より、応募研究課題の課題全体を通した「長所」「短所」の両面からの意見を求めることで内容を充実させており、審査委員が行う審査により資するものとした。

このように、専門的な意見に加えて多角的な意見を記載するようにしたところ、審査委員からは肯定的な意見が多く寄せられた。

また、ヒアリングの適正な審査の観点から、研究種目の趣旨・目的及び審査方法（審査の着目点、審査基準及びヒアリング時の留意事項、合議審査の進め方等）について、各小委員会の幹事への事前打ち合わせを更に充実させた。

さらに、合議審査時の議論をより一層充実させるため、次の2点の改善を行った。

① 応募者に対する「事前質問」対応

第2回合議審査（ヒアリングの実施、合議による採択候補研究課題の選定）のヒアリング時における質疑応答時間の有効活用と、ヒアリング後の全体合議時における審議に資するものとして、研究経費の積算根拠に疑問がある応募研究課題に対しては、あらかじめ疑義に対する質問状を研究代表者に送付し、書面による回答を求め審査委員間で共有することとした。

② ヒアリング時及び合議審査時における対応

第2回合議審査の際、各ヒアリング対象課題に対して「審査委員が個別に行う評価時」及び「小委員会全体で行う評価時」のいずれの時点においても、ヒアリング対応の巧拙のみによる判断とはせず、研究計画調書をもとに書面審査の内容・第1回合議審査の内容（ヒアリング研究課題の選定）・ヒアリングの内容を総合的に判断することを改めて確認した。

加えて、「個々の審査委員が付した個別の評価結果」に囚われすぎることなく、小委員会全体の合議における議論を深め、「優先して採択すべきもの」と評価する応募課題を採択候補研究課題として選定することをあわせて確認し実施した。

これら審査方法の改善については、その有効性等を含めた検証を行った上で、今後、より適切な審査方法を検討していく必要がある。

○ 基盤研究（A）

総合審査方式については、審査委員、学術システム研究センター研究

員双方より、前年と同様相当数の肯定的な意見があった。主な意見としては、「専門分野の違いによって評価が大きく分かれる点は相互批判、科学の追求にとって意義がある。」「中区分は広く、分野毎の価値観が異なるところは難しいが、そこで合議することはよいことである。」との意見があった。なお、更なる議論の深化に資するように、審査資料や合議審査の進め方などについて、今後とも改善に向けて検討していく必要がある。

また、平成30(2018)年度より、不採択となった研究課題について、審査結果の所見を研究代表者に開示しており、令和2(2020)年度からは、採択された課題についても、審査結果の所見を研究代表者に開示するとともに、審査結果の所見の概要を科学研究費助成事業データベース(KAKEN)に公開している。

<2段階書面審査方式>

○ 基盤研究(B・C)(応募区分「一般」、若手研究、挑戦的研究)

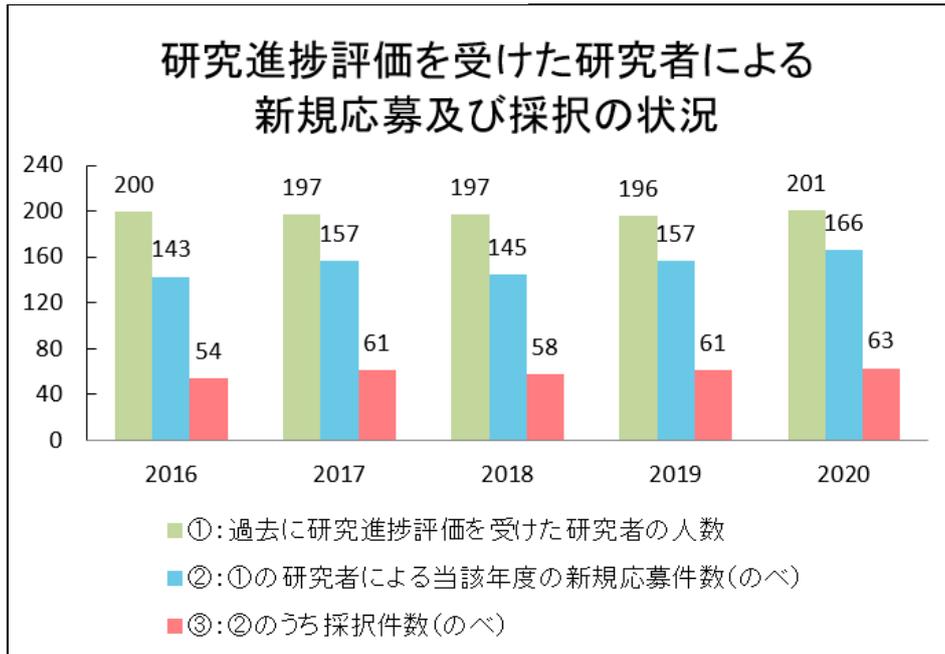
2段階書面審査のボーダーゾーンの評点状況について、1段階目の評点が高得点でも2段階目では低い評点を付しているケース(又はその逆)が見られるなど、2段階目で他の審査委員の評価結果(審査意見)を参考に再評価する仕組みが機能していると考えられる。

②研究進捗評価結果を次の審査に活かす仕組み

「特別推進研究」等の大型研究種目については、平成20(2008)年度から従来実施していた中間・事後評価を統一して「研究進捗評価」に改め、平成21(2009)年度からその評価結果を次の応募の際の研究計画に添付し、当該応募研究課題と進捗評価を受けた研究課題の関連性を審査の際に活用するなど、次の審査に活かす仕組みを導入し、優れた研究課題を継続して支援できるような審査を行っている。

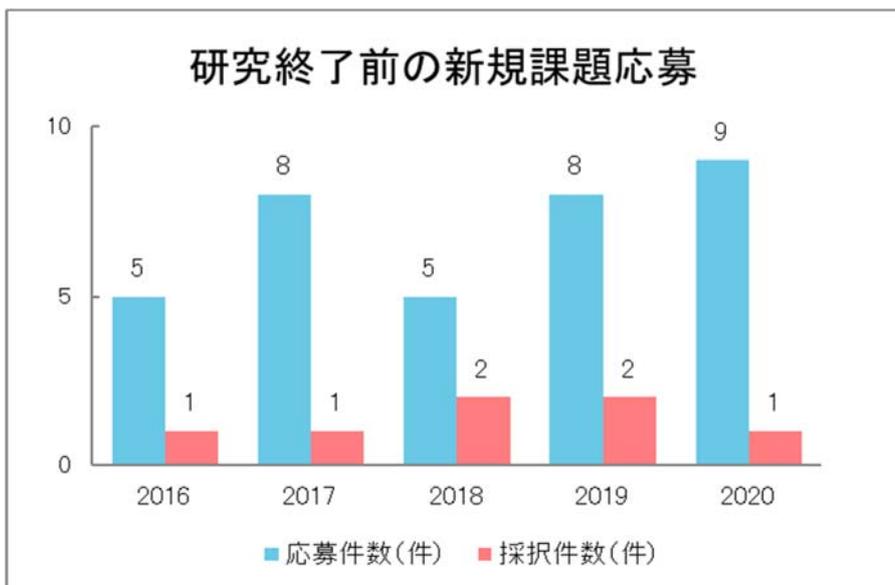
また、評価対象課題の研究代表者に対し、長所(研究成果が期待される点など)及び短所(課題や見直しを要する点など)の両面から評価所見を開示しており、当該評価を受けた研究者においても、次に応募する研究課題の研究計画調書に評価結果を踏まえた研究計画を記載して審査を受けることができるようにしている。

なお、研究進捗評価を受けた研究者から研究期間最終年度前年度あるいは、最終年度において、引き続き次の新規応募があった研究課題の応募・採択状況は以下のとおり。令和2(2020)年度においては、平成30(2018)年度及び令和元(2019)年度に評価を受けた201人の研究代表者のうち、のべ166件の応募がありのべ63件が採択された。



③研究が予想以上に進展した場合に研究期間終了前に新規課題を応募できる仕組み

平成21(2009)年度より、継続課題の早期完了を可能とする仕組みが導入され、研究が予想以上に進展した場合に研究期間終了前に新規課題を応募することが可能となった。令和2(2020)年度は同制度を用いて9件(前年度8件)の新規課題の応募があり、1件(同2件)の研究課題が採択された。採択された研究課題の内訳は、挑戦的研究(萌芽)1件であった。



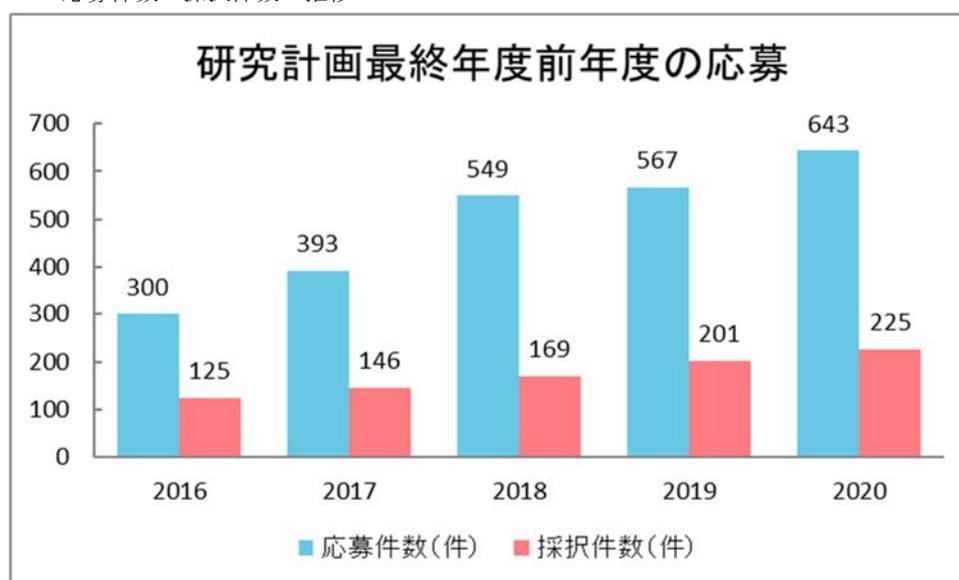
④研究計画最終年度前年度の応募

研究計画最終年度前年度の応募について、応募件数は643件（前年度567件）、採択件数は225件（同201件）であった。

「若手研究」から「基盤研究」への研究計画の移行が円滑に図られるように、平成22（2010）年度から4年以上の研究期間の課題を対象として「若手研究」を基にした研究計画最終年度前年度の応募を導入しているが、平成30（2018）年度より基盤研究（S・A・B）（応募区分「一般」）への応募に限り、継続中の研究課題のうち、3年間の研究計画であっても最終年度前年度の応募を可能とした。令和2（2020）年度において、若手研究（A）を基に50件（前年度70件）、若手研究（B）を基に48件（同120件）、若手研究を基に133件（同0件）の応募があり、それぞれ15件（同29件）、24件（同37件）、41件（同0件）が採択された。このうち、基となる研究課題の研究計画が3年である応募件数は、若手研究（A）を基に1件、若手研究（B）を基に1件、若手研究を基に133件であり、それぞれ0件、0件、41件が採択された。

研究費が途切れる心配を少なくし、優れた研究課題が安定して研究できることを目指す研究計画最終年度前年度の応募の仕組みが一定の効果をj得ていると考える。

応募件数・採択件数の推移



⑤若手研究（2回目）と基盤研究（S・A・B）への重複応募について

令和2（2020）年度応募より、優秀な若手研究者に対して、より規模の大きな研究への挑戦を促進するため、「若手研究（2回目）」と「基盤研究（S・A・B）」との重複応募が可能となった。これにより若手研究（2回目）と基盤研究（S）に1件、基盤研究（A）に6件、基盤研究（B）に559件の応募があった。このうち、基盤研究（S・A）での採択はなかったが、基盤研究（B）に121件が採択された。これまで基盤研究への応募を躊躇

していた若手研究者に対して、一定程度基盤研究への応募を促す効果があったと考えられる。

次に、応募書類の受付から審査の状況、審査結果の概要等をまとめる。

2. 応募書類の受付

応募書類について、研究種目毎に次のとおり受付を行った。

(1) 特別推進研究、基盤研究、若手研究、挑戦的研究、国際共同研究加速基金（帰国発展研究）

「電子申請システム」を活用して、令和元(2019)年11月7日を研究計画調書の提出（送信）期限として受付を行った。

(2) 研究成果公開促進費（研究成果公開発表、国際情報発信強化、学術図書、データベース）

研究成果公開発表（研究成果公開発表（B）のうち、「ひらめき☆ときめきサイエンス」を除く）、国際情報発信強化、学術図書、データベースについては、「電子申請システム」を活用して、令和元(2019)年11月7日を計画調書の提出（送信）期限として受付を行った。

ただし、学術図書の「完成した原稿等の写し」及び国際情報発信強化の「最新刊行物等」については、令和元(2019)年11月7日～11月12日を受付期間として、受付を行った。

「ひらめき☆ときめきサイエンス」については、「電子申請システム」を活用して、令和元(2019)年12月19日を計画調書の提出（送信）期限として受付を行った。

(3) 奨励研究

「電子申請システム」を活用し、令和元(2019)年11月7日を研究計画調書の提出（送信）期限として受付を行った。

(4) 研究活動スタート支援

「電子申請システム」を活用して、令和2(2020)年5月29日を研究計画調書の提出（送信）期限として受付を行った。

3. 審査について

「科学研究費助成事業における審査及び評価に関する規程」及び「科学研究費助成事業における審査及び評価に関する規程の令和2年度審査における特例的取り扱いについて」に基づき、科学研究費委員会（別紙1）における研究種目毎の次の小委員会等において、7,815（前年度7,737）名の審査委員により審

査を実施した。

また、審査委員の審査負担の軽減や、次世代の審査委員を育成するなどの観点から、令和2（2020）年度の審査からは、「若手研究」と「若手研究（B）」の採択経験者を審査委員候補者データベースへ登録し審査委員候補者の拡充を図るとともに、年齢層が比較的低い（49歳以下）研究者を「基盤研究（B）」「基盤研究（C）」「若手研究」の審査委員に積極的に登用した。

（1）特別推進研究

審査組織	審査・評価第一部会に置かれる専門分野毎の3小委員会（審査委員数32名（以下同じ。））及び運営小委員会（8名）	
審査方法	<ul style="list-style-type: none"> ・審査方式：総合審査（書面審査及び合議審査） ・審査区分：「人文社会系」、「理工系」及び「生物系」（審査委員8名～14名） ・審査意見書（応募研究課題と専門分野が近い国内及び海外の研究者各3名程度が作成）も活用し、書面審査及びヒアリング対象課題を選定する合議審査を実施 ・研究計画調書をもとに、書面審査の内容・第1回合議審査の内容・ヒアリングの内容を総合的に判断し、合議により採択研究課題を決定 	
審査等の経過	令和元（2019）年12月9日～令和2（2020）年1月10日	審査意見書作成者（504名）が審査意見書を作成
	令和2（2020）年1月15日～2月21日	書面審査
	令和2（2020）年2月17日～2月28日	第1回合議審査（ヒアリング研究課題の選定）
	令和2（2020）年3月23日～3月24日	第2回合議審査（ヒアリングの実施、採択候補研究課題の選定） ※理工系小委員会を除き、人文社会系、生物系の審査を終了
	<p>（この間、コロナの感染拡大等の影響により、第2回合議審査を中断。 従前の「集合会議」方式に代わる代替手段を検討し、決定。 あわせて審査ルール等を変更。）</p>	
令和2（2020）年6月29日～3	第2回合議審査（ヒアリング	

	0日	の実施、採択候補研究課題の選定) ※中断した理工系小委員会の審査を「Web会議」形式で実施
	令和2(2020)年7月15日	運営小委員会(各小委員会の審査結果を踏まえ、採択研究課題を決定) ※「Web会議」形式で実施

(2) 基盤研究(S)

審査組織	審査・評価第二部会に置かれる専門分野毎の21小委員会(126名)及び運営小委員会(23名)	
審査方法	<ul style="list-style-type: none"> ・審査方式:総合審査(書面審査及び合議審査) ・審査区分:大区分(審査委員6名~18名) ・審査意見書(応募研究課題と専門分野に近い国内の研究者3名が作成)も活用し、書面審査及びヒアリング対象課題を選定する合議審査を実施 ・研究計画調書をもとに、書面審査の内容・第1回合議審査の内容・ヒアリングの内容を総合的に判断し、合議により採択研究課題を決定 	
審査等の経過	令和元(2019)年12月9日~ 令和2(2020)年1月10日	審査意見書作成者(1,717名)が審査意見書を作成
	令和2(2020)年1月16日~ 2月27日	書面審査
	令和2(2020)年3月11日~ 3月26日	第1回合議審査(ヒアリング研究課題の選定) ※全21小委員会のうち、15小委員会の審査を終了
	<p>(この間、コロナの感染拡大等の影響により、第1回合議審査を中断。 従前の「集合会議」方式に代わる代替手段を検討し、決定。 あわせて審査ルール等を変更。)</p>	
	令和2(2020)年6月15日~ 6月22日	第1回合議審査(ヒアリング研究課題の選定) ※全21小委員会のうち、中断した6小委員会の審査を「Web会議」形式で実施

	令和2(2020)年7月1日～7月29日	第2回合議審査（ヒアリングの実施、採択候補研究課題の選定） ※「Web会議」形式で実施
	令和2(2020)年8月13日	運営小委員会（各小委員会の審査結果を踏まえ、採択研究課題を決定） ※「Web会議」形式で実施

(3) 基盤研究（A）

審査組織	審査第一部会に置かれる専門分野毎の82小委員会（519名）	
審査方法	<ul style="list-style-type: none"> ・審査方式：総合審査（書面審査及び合議審査） ・審査区分：中区分（審査委員 6名～8名） ・書面審査及び合議審査を行い、採択研究課題を決定 	
審査の経過	令和元(2019)年12月10日～令和2(2020)年1月14日	書面審査
	令和2(2020)年1月30日～2月27日	合議審査を実施（採択研究課題を決定）

(4) 挑戦的研究

審査組織	挑戦的研究部会に置かれる専門分野毎の91小委員会（611名）	
審査方法	<ul style="list-style-type: none"> ・審査方式：2段階の書面審査 ・審査区分：中区分 及び 特設審査領域 ・事前の選考[各小委員会に属する審査委員（6～8名）のうち3名が研究計画調書（概要版）を用いて採択候補研究課題を絞り込む。（応募件数が少ない場合は事前の選考は実施しない。）] ・審査委員全員が研究計画調書を用いて書面審査 ・当初予定していた合議審査を中止し、2段階の書面審査に切り替えて採択研究課題を決定 	
審査の経過	令和元年(2019)年12月10日～令和2年(2020)年1月16日（特設審査領域については令和2年(2020)年2月3日～2月25日）	事前の選考

	令和2年(2020)年3月2日～ 4月14日(特設審査領域に ついては令和2年(2020)年4 月1日～5月8日)	書面審査
	<p>(この間、コロナの感染拡大等の影響により、合議審査を中止。 従前の「集合会議」方式に代わる代替手段を検討し、決定。あわせて審査ルール等を変更。)</p>	
	令和2(2020)年6月19日～ 7月3日	2段階目の書面審査(採択研究課題の決定)

(5) 基盤研究(B)

審査組織	審査第二部会に置かれる専門分野毎の314小委員会(1,886名)	
審査方法	<ul style="list-style-type: none"> ・審査方式：二段階書面審査 ・審査区分：小区分(審査委員 6名) ・2段階にわたり書面審査を行い、採択研究課題を決定 	
審査の経過	令和元(2019)年12月10日 ～令和2(2020)年1月17日	1段階目の書面審査
	令和2(2020)年2月7日～2 月21日	2段階目の書面審査(採択研究課題を決定)

(6) 基盤研究(C)

審査組織	審査第三部会に置かれる専門分野毎の630小委員会(2,533名)	
審査方法	<ul style="list-style-type: none"> ・審査方式：二段階書面審査 ・審査区分：小区分(審査委員 4名) ・2段階にわたり書面審査を行い、採択研究課題を決定 	
審査の経過	令和元(2019)年12月10日 ～令和2(2020)年1月17日	1段階目の書面審査
	令和2(2020)年2月7日～2 月21日	2段階目の書面審査(採択研究課題を決定)

(7) 若手研究

審査組織	審査第四部会に置かれる専門分野毎の390小委員会(1,566名)	
審査方法	<ul style="list-style-type: none"> ・審査方式：二段階書面審査 ・審査区分：小区分(審査委員 4名) 	

	・ 2段階にわたり書面審査を行い、採択研究課題を決定	
審査の経過	令和元(2019)年12月10日 ～令和2(2020)年1月17日	1段階目の書面審査
	令和2(2020)年2月7日～2 月21日	2段階目の書面審査(採択研 究課題を決定)

(8) 研究活動スタート支援

審査組織	審査第五部会に置かれる専門分野毎の65小委員会(260名)	
審査方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 審査方式：二段階書面審査 ・ 審査区分：「研究活動スタート支援 審査区分」(審査委員 4名) ・ 2段階にわたり書面審査を行い、採択研究課題を決定 	
審査の経過	令和2(2020)年6月26日～ 7月20日	1段階目書面審査
	令和2(2020)年8月5日～8 月20日	2段階目の書面審査(採択研 究課題を決定)

(9) 奨励研究

審査組織	奨励研究部会に置かれる専門分野毎の59小委員会(177名)	
審査方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 審査方式：二段階書面審査 ・ 審査区分：「奨励研究 審査区分表」(審査委員 3名) ・ 2段階にわたり書面審査を行い、採択研究課題を決定 	
審査の経過	令和元(2019)年12月10日 ～令和2(2020)年1月17日	1段階目の書面審査
	令和2(2020)年2月7日～2 月21日	2段階目の書面審査(採択研 究課題を決定)

(10) 国際共同研究加速基金(帰国発展研究)

審査組織	審査・評価第一部会に置かれる専門分野毎の3小委員会(32名)及び運営小委員会(8名)	
審査方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 審査方式：総合審査(書面審査及び合議審査) ・ 審査区分：「人文社会系」、「理工系」及び「生物系」(審査委 	

	員 8 名～14 名) ・審査意見書 (審査意見書作成者、国内の研究機関に所属する応募研究課題と専門分野が近い研究者 3 名が作成) も活用し、書面審査及び合議審査を行い採択課題を決定	
審査の経過	令和元(2019)年 1 2 月 9 日～令和 2 (2020) 年 1 月 1 0 日	審査意見書作成者 (135 名) が審査意見書を作成
	令和 2 (2020) 年 1 月 1 5 日～2 月 2 1 日	書面審査
	令和 2 (2020) 年 2 月 1 7 日～2 月 2 8 日	合議審査 (採択研究課題を決定)

(11) 研究成果公開促進費

①研究成果公开发表、国際情報発信強化、学術図書、データベース

審査組織	成果公開部会に置かれる 6 小委員会 (105 名) 及び運営小委員会 (6 名)		
審査方法	① 国際情報発信強化	〔国際情報発信強化 (A)・オープンアクセス刊行支援〕	・国際情報発信強化小委員会に属する 15 名 (編集長等経験者 9 名及び刊行業務等担当者 6 名) の審査委員が書面審査を実施 ・小委員会において合議審査により採択課題を決定
		〔国際情報発信強化 (B)〕	・国際情報発信強化小委員会に属する 6 名～12 名 (審査を希望する審査区分の編集長等経験者 3 名 (2 区分にまたがる場合は 6 名、3 区分にまたがる場合は 9 名) 及び刊行業務担当者 3 名) の関連審査委員が書面審査を実施 ・小委員会において合議審査により採択課題を決定

	② 研究成果公開発表（研究成果公開発表（B）のうち、「ひらめき☆ときめきサイエンス」を除く）、学術図書、データベース		<ul style="list-style-type: none"> 各小委員会に属する3名の関連審査委員が書面審査を実施 各小委員会において合議審査により採択課題を決定
	③ 研究成果公開発表（B）のうち、「ひらめき☆ときめきサイエンス」		<ul style="list-style-type: none"> 研究成果の社会還元・普及小委員会に属する21名の審査委員が書面審査を実施 合議審査により採択課題を決定
審査の経過	① 国際情報発信強化	令和元(2019)年12月16日～令和2(2020)年1月16日	書面審査
		令和2(2020)年1月28日及び令和2(2020)年2月25日	合議審査（採択課題を決定）
	② 研究成果公開発表（研究成果公開発表（B）のうち、「ひらめき☆ときめきサイエンス」を除く）、学術図書、データベース	令和元(2019)年12月10日～令和2(2020)年1月10日	書面審査
		令和2(2020)年2月3日～令和2(2020)年3月12日	合議審査（採択課題を決定）
	③ 研究成果公開発表（B）のうち、「ひらめき☆ときめきサイエンス」	令和2(2020)年1月23日～2月12日	書面審査
		令和2(2020)年2月27日	合議審査（採択候補課題を決定）
		令和2(2020)年3月4日	研究成果の社会還元・普及小委員会において採択課題を決定

2020年度公募 審査スケジュール (基盤研究 (A・B・C)、若手研究)

		基盤(A)	基盤(B)	基盤(C)	若手
		82小委員会	314小委員会	630小委員会	390小委員会
12月		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 12月10日～1月14日 書面審査 </div>			
1月			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 1月30日～2月27日 合議審査 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 12月10日～1月17日 書面審査(1段階目) </div>	
1/30	木	第9小委員会(8) 第28小委員会I(6) 第36小委員会(6) 第40小委員会(6) 第47小委員会(6)			
31	金	第7小委員会II(8) 第10小委員会(6) 第14小委員会(6) 第30小委員会(6) 第61小委員会I(8)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 2月7日～2月21日 書面審査(2段階目) </div>		
2/1	土				
2	日				
3	月	第3小委員会I(7) 第4小委員会(6) 第25小委員会(6) 第39小委員会(7) 第61小委員会II(8)			
4	火	第13小委員会II(6) 第20小委員会(6) 第21小委員会III(6) 第55小委員会(6) 第64小委員会(6)			

5	水	第 5 小委員会(7)			
		第 2 2 小委員会 I (6)			
		第 3 3 小委員会(6)			
		第 3 7 小委員会(6)			
		第 4 8 小委員会(6)			
6	木	第 1 8 小委員会(6)			
		第 3 5 小委員会(6)			
		第 3 8 小委員会(6)			
		第 4 3 小委員会 II (6)			
7	金	第 2 2 小委員会 II (6)			
		第 2 3 小委員会(6)			
		第 2 6 小委員会 I (6)			
		第 2 7 小委員会(6)			
		第 5 8 小委員会(8)			
8	土				
9	日				
10	月	第 1 6 小委員会 I (6)			
		第 1 7 小委員会 I (6)			
		第 2 1 小委員会 I (6)			
		第 4 1 小委員会(6)			
		第 4 3 小委員会 I (6)			
11	火				
12	水	第 1 3 小委員会 I (6)			
		第 2 4 小委員会(6)			
		第 2 8 小委員会 II (5)			
		第 4 5 小委員会(6)			
		第 5 4 小委員会(6)			
13	木	第 3 4 小委員会(6)			
		第 5 2 小委員会(6)			
		第 5 7 小委員会(8)			
		第 5 9 小委員会(6)			
		第 6 2 小委員会(6)			
14	金	第 1 小委員会(8)			
		第 1 2 小委員会(6)			
		第 2 6 小委員会 II (6)			
		第 4 9 小委員会(7)			
		第 5 3 小委員会(6)			
15	土				
16	日				

17	月	第7小委員会Ⅰ(8)			
		第17小委員会Ⅲ(6)			
		第29小委員会(6)			
		第60小委員会Ⅰ(8)			
		第63小委員会Ⅰ(6)			
18	火	第2小委員会(8)			
		第15小委員会Ⅰ(6)			
		第19小委員会(6)			
		第32小委員会(6)			
		第46小委員会(6)			
19	水	第6小委員会(6)			
		第15小委員会Ⅱ(6)			
		第17小委員会Ⅱ(6)			
		第42小委員会(6)			
		第51小委員会(6)			
20	木	第44小委員会(6)			
		第50小委員会(6)			
		第60小委員会Ⅱ(8)			
		第63小委員会Ⅱ(6)			
		第8小委員会(6)			
21	金	第21小委員会Ⅱ(6)			
		第56小委員会(7)			
		第90小委員会Ⅱ(6)			
22	土				
23	日				
24	月				
25	火				
26	水				
27	木	第3小委員会Ⅱ(7)			
		第11小委員会(6)			
		第16小委員会Ⅱ(6)			
		第31小委員会(6)			
		第90小委員会Ⅰ(6)			
応募件数		2,519件	12,198件	44,948件	18,708件
審査委員数		519名	1,886名	2,533名	1,566名

4月1日(水)交付内定に
向けた作業

- ・審査結果の確認、取り纏め
- ・交付内定通知作成
- ・各大学等への発送準備

※ () 内の数字は審査委員数を示している。

※小委員会名の数字は、中区分を示している。

審査区分表 : https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/02_koubo/shinsakubun.html

4. 新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた対応について

(1) はじめに：科学研究費委員会として状況変化を振り返る

コロナについては、本年1月に国内でも感染者が確認され、以後、国内における感染者が拡大するなどの経過を経て現在の状況に至っている。

科研費の審査は、本年1月から3月の間も継続的に実施された。中でも基盤研究（A）については連日5つ程度の小委員会が開催され、1月下旬から2月下旬にかけて、審査委員がJSPSに一堂に会する「集合会議」形式により82の小委員会が実施された。（別紙2参照）これにより基盤研究（A）の審査は終了した。

また、2月中旬からは特別推進研究の第1回会議審査、3月中旬からは特別推進研究の第2回会議審査及び基盤研究（S）の第1回会議審査が「集合会議」形式で継続的に実施された。

審査委員におかれては、日々報道されるコロナの危険性を感じながら「集合会議」形式の小委員会に参画いただいたと思われる。審査を進めていただいた委員各位の御尽力に対しあらためて敬意を表したい。

一方、3月中旬を過ぎるとコロナの影響はより拡大し、科研費の審査についても令和2（2020）年3月27日以降に予定していた審査については中断することを余儀なくされた。

このことはJSPSとしても苦渋の選択であったと認識しているが、審査中断直後の令和2（2020）年4月7日に改正新型インフルエンザ等対策特別措置法第32条第1項の規定に基づく緊急事態宣言を発出された一連の状況から見ても、適切な判断であったと考えている。

審査中断以降にあっては、文科省とJSPSで困難な状況の中、審査再開に向けた種々の検討が行われ、科学技術・学術審議会における審議、科学研究費委員会における審議を経てコロナの影響の中で実現可能な方法が考察、実装された。具体的内容の要約は後述のとおりである。

(2) 審査について

JSPSにおいて、コロナの影響を考えて審査を中断した研究種目について、再開に向け様々な角度から検討したが、審査の延期だけでは解決することが極めて困難な状況であると判断した。JSPSが実施する審査は、科学研究費助成事業における審査及び評価に関する規程第10条に基づき、文部科学省科学技術・学術審議会が定める「独立行政法人日本学術振興会が行う科学研究費助成事業の審査の基本的考え方」に従って実施することと定められている。このため、JSPSから文科省に対し、令和2年度に限り柔軟な対応を採ることについて了承することを要請した。文科省は、JSPSの要請を踏まえ、科学技術・学術審議会での審議を要請し、審議の結果、「独立行政法人日本学術振興会が行う科学研究費助成事業の審査の基本的考え方の令和2年度審査における特例」が科学技術・学術審議会により決定された。これにより、審査を中断した研究種目について令和2年度に限り柔軟な対応を採ることが可能となった。

個別の対応状況については、以下のとおりであった。

①特別推進研究

従来、書面審査の終了後、同一の審査委員が一堂に会して行う「集合会議」形式による第1回合議審査において、ヒアリング実施対象とする研究課題の選定を行い、その後、第2回合議審査（「集合会議」形式により開催）においてヒアリングを実施し、合議により採択候補研究課題を選定することとしている。

しかしながら、令和2年度審査においては、人文社会系・理工系・生物系の3つの小委員会のうち、人文社会系・生物系の2つについては、従来の方式で審査を終えたものの、理工系の審査については、当初、3月下旬に開催予定であった第2回合議審査（ヒアリングの実施、合議による採択候補研究課題の選定）をやむなく中断した。

その後、Web上の会議システムを活用した「Web会議」形式により審査を再開し、採択候補研究課題の選定を行った。（会議開催イメージは30ページ参照）

なお、「Web会議」形式による審査再開にあたり、確実に審査を完了させるために行った主な対応は以下のとおり。

- ・合議審査の開催に先立ち、事務局と審査委員及び応募者による「Web会議」システムへの試験接続を行い、通信環境上の障害発生要因の有無を確認。
- ・合議審査の実施にあたり必要とされる審査の考え方、手順、具体的な審査規程等の内容の共通認識を図るため、審査委員への事前説明を実施し、疑問点をあらかじめ解消。
- ・従前、合議審査当日のヒアリング時に対面で行っていた応募者からの説明（10分間）は、「動画（10分間の内容説明のナレーション付き）」の提出を求めることに代えるとともに、ヒアリングの実施に先立ち審査委員へ当該動画を提供し内容の確認を依頼。
- ・第2回合議審査におけるヒアリング時には、「Web会議」システムを通じた応募者との質疑応答により応募課題に対する疑問点の解消を図った。

②基盤研究（S）

特別推進研究と同様に、従来、書面審査の終了後、同一の審査委員が一堂に会して行う「集合会議」形式による第1回合議審査において、ヒアリング実施対象とする研究課題の選定を行い、その後、第2回合議審査（「集合会議」形式により開催）においてヒアリングを実施し、合議により採択候補研究課題を選定することとしている。

しかしながら、令和2年度審査においては、第1回合議審査を行う全21の小委員会うち、15の小委員会については、従前の方式でヒアリング

実施対象課題の選定を終えたものの、6の小委員会については、第1回合議審査をやむなく中断した。あわせて、4月以降に開催予定としていた第2回合議審査も中断・延期せざるを得なくなった。

その後、Web上の会議システムを活用した「Web会議」形式により審査を再開し、第1回合議審査（6の小委員会）及び第2回合議審査（11の小委員会）を開催して採択候補研究課題の選定を行った。

なお、「Web会議」形式による審査再開にあたり、確実に審査を完了させるため、上述の特別推進研究と同様の対応を行った。

③挑戦的研究（開拓・萌芽）

従来は、「審査委員全員が全ての研究課題について、個別に書面による審査を行った上で、同一の審査委員が多角的な観点から合議による審査を行う審査方式」により、JSPSに集合し、採択研究課題を決定していた。

令和2年度審査では、助成金の早期交付に十分配慮する観点から、611名の審査委員が1ヶ月以上かけて実施する91小委員会の日程を再調整することは極めて困難と判断した。このため、既に行われている書面審査の結果を活用し、同一の審査委員が相互の評点・コメントを確認して再度評価する2段階の書面審査によって採択候補研究課題を選定した。

なお、審査システムは既存の「2段階書面審査方式」の仕組みを有効に活用するとともに、研究種目の趣旨を踏まえた審査を担保するため、各審査委員に対して挑戦性の観点を改めて周知した。

(3) 「Web会議」形式の課題

今般、「Web会議」形式による審査を導入したが、実際の活用に至るまで、JSPS内で、通信環境上の障害発生等に関する検証（障害発生要因の洗い出しや防止方策、障害発生時の対応方法等の検討・準備）が繰り返し行われた。その甲斐もあって審査実施中には大きなトラブルが発生することなく運営できている。

他方、委員各位に依存せざるを得ない通信環境等については、JSPSでコントロールできないこともあり、全くストレスのない会議とするまでには更なる検証や工夫が必要である。

また、会議参加者から、「Web会議」形式の会議はまだ慣れないためストレスがたまる、長時間の会議には向かない、等の指摘も受けている。こうした点は小委員会を運営するJSPS職員についても言えるところがあり、審査委員、ヒアリング対象者ともに確実に通信を維持するための様々な準備に追われ、加えて、通信状態が不安定になると小委員会を中断せざるを得ない可能性もあるため、極度の緊張状態が続く、疲労感が著しい、などの所感が寄せられている。これらのことから、「Web会議」形式による審査への対応は、「集合会議」形式による小委員会の開催よりも困難度が高かったと考えられる。一方で、「Web会議」形式による審査では、審査委員が集合するための移動がないため、「集合会議」形式より参画しやすいなど、審査委員にとって

利点と考えられる面もあった。

今般の小委員会への実装で見えてきた課題は、多様であり、次年度以降の総合審査で「Web 会議」形式を活用するに当たっても様々な困難が予想される。今後、審査に参画いただく委員各位におかれても、「Web 会議」形式の特異性をできる限り御理解いただき、必要な協力をよろしくお願いしたい。

(4) 公募について

公募・審査に関わる対応について、研究活動スタート支援の応募書類提出期限を5月11日から5月29日に延長した。

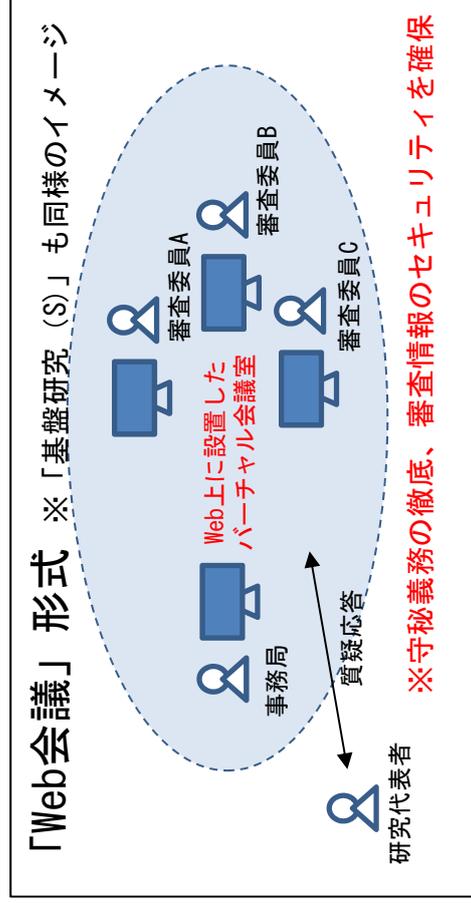
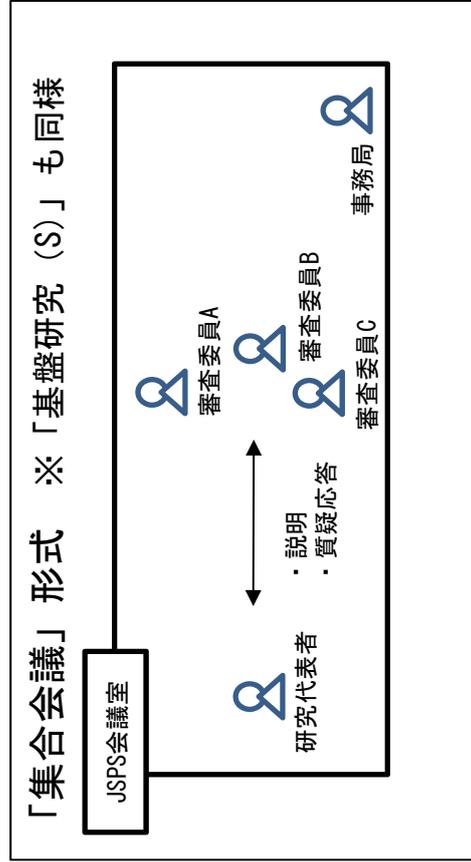
【参考】

令和2年度「特別推進研究」「基盤研究（S）」の会議開催形式について

本来の審査方式

令和2年度

特例の審査方式



各小委員会は、6名～18名の審査委員で構成

5. 応募・採択等の状況

(別紙3) 令和2(2020)年度科研費助成事業の審査結果(研究種目別の応募・採択等の状況)

(別紙4) 研究機関種別の応募・採択等の状況

(別紙5) 職種別の応募・採択等の状況

(別紙6) 男女別の応募・採択等の状況

(別紙7) 年齢別の応募・採択等の状況

注1) 別紙3～7に記載の配分額は直接経費の配分額を指す。

注2) 別紙3～7について、科研費の審査(ピアレビュー)に当たっては研究者の属性等を考慮した審査は行っていないが、審査結果の参考として集計したもの。

令和2(2020)年度科学研究費助成事業の審査結果

新規採択分

令和2(2020)年10月現在

研究種目	研究課題数			研究経費 配分額	1課題当たりの配分額	
	応募	採択	採択率		平均	最高
科学研究費	〔 98,572 〕 97,536	〔 28,160 〕 27,714	〔 28.6 〕 28.4	〔 59,459,370 〕 58,990,540 〔 17,630,760 〕	〔 2,111 〕 2,129	〔 150,900 〕 151,900
(1)特別推進研究	〔 106 〕 105	〔 12 〕 12	〔 11.3 〕 11.4	〔 1,123,000 〕 1,172,800 〔 351,840 〕	〔 93,583 〕 97,733	〔 150,900 〕 151,900
(2)基盤研究(S)	〔 659 〕 685	〔 81 〕 80	〔 12.3 〕 11.7	〔 3,114,800 〕 3,209,800 〔 962,940 〕	〔 38,454 〕 40,123	〔 91,600 〕 114,000
(3)基盤研究(A)	〔 2,412 〕 2,519	〔 605 〕 611	〔 25.1 〕 24.3	〔 7,116,900 〕 7,066,900 〔 2,120,070 〕	〔 11,763 〕 11,566	〔 35,000 〕 29,200
(4)基盤研究(B)	〔 11,396 〕 12,198	〔 3,327 〕 3,393	〔 29.2 〕 27.8	〔 16,862,200 〕 17,157,300 〔 5,147,190 〕	〔 5,068 〕 5,057	〔 13,400 〕 13,000
(5)基盤研究(C)	〔 45,758 〕 44,948	〔 12,918 〕 12,775	〔 28.2 〕 28.4	〔 15,632,800 〕 15,248,700 〔 4,574,610 〕	〔 1,210 〕 1,194	〔 3,100 〕 3,000
(6)挑戦的研究(開拓)	〔 699 〕 1,607	〔 81 〕 148	〔 11.6 〕 9.2	〔 564,400 〕 1,071,500 〔 321,450 〕	〔 6,968 〕 7,240	〔 17,500 〕 19,000
(7)挑戦的研究(萌芽)	〔 10,815 〕 9,722	〔 1,388 〕 1,241	〔 12.8 〕 12.8	〔 3,243,600 〕 2,862,200 〔 858,660 〕	〔 2,337 〕 2,306	〔 4,800 〕 4,600
(8)若手研究	〔 19,590 〕 18,708	〔 7,831 〕 7,496	〔 40.0 〕 40.1	〔 10,130,700 〕 9,497,000 〔 2,849,100 〕	〔 1,294 〕 1,267	〔 3,200 〕 3,200
(9)研究活動スタート支援	〔 3,744 〕 3,811	〔 1,403 〕 1,455	〔 37.5 〕 38.2	〔 1,418,900 〕 1,483,000 〔 444,900 〕	〔 1,011 〕 1,019	〔 1,100 〕 1,100
(10)奨励研究	〔 3,393 〕 3,233	〔 514 〕 503	〔 15.1 〕 15.6	〔 252,070 〕 221,340	〔 490 〕 440	〔 580 〕 480
研究成果公開促進費	〔 1,368 〕 1,283	〔 566 〕 557	〔 41.4 〕 43.4	〔 720,630 〕 685,680	〔 1,273 〕 1,231	〔 9,200 〕 13,800
研究成果公開発表	〔 516 〕 485	〔 267 〕 263	〔 51.7 〕 54.2	〔 149,530 〕 141,980	〔 560 〕 540	〔 7,900 〕 4,300
国際情報発信強化	〔 29 〕 21	〔 10 〕 8	〔 34.5 〕 38.1	〔 43,800 〕 43,600	〔 4,380 〕 5,450	〔 9,200 〕 13,800
学術図書	〔 716 〕 686	〔 252 〕 252	〔 35.2 〕 36.7	〔 413,500 〕 392,300	〔 1,641 〕 1,557	〔 8,900 〕 8,100
データベース	〔 107 〕 91	〔 37 〕 34	〔 34.6 〕 37.4	〔 113,800 〕 107,800	〔 3,076 〕 3,171	〔 7,100 〕 8,500
合計	〔 99,940 〕 98,819	〔 28,726 〕 28,271	〔 28.7 〕 28.6	〔 60,180,000 〕 〔 17,762,190 〕 59,676,220 〔 17,630,760 〕	〔 2,095 〕 2,111	〔 150,900 〕 151,900

(注1) 上段〔 〕内は前年度、下段【 】は間接経費(外数)を示す。

(注2) 基盤研究(C)、挑戦的研究(萌芽)、若手研究、研究活動スタート支援については、基金種目であるため、「配分額」欄及び「1課題当たりの配分額」欄には、令和2(2020)年度の当初計画に対する配分額を計上。

(注3) 「特別研究員奨励費」、挑戦的研究(開拓・萌芽)「特設審査領域」、「新学術領域研究(研究領域提案型)」は含まない。

なお、挑戦的研究(開拓)「特設審査領域」の令和2(2020)年度新規分の応募・採択状況は、応募数(85件)、採択数(8件)、配分額(直接経費 45,900千円、間接経費 13,770千円)、挑戦的研究(萌芽)「特設審査領域」の令和2(2020)年度新規分の応募・採択状況は、応募数(222件)、採択数(28件)、配分額(直接経費 59,200千円、間接経費 17,760千円)であった。

令和2(2020)年度科学研究費助成事業の審査結果

新規採択分＋継続分

令和2(2020)年10月現在

研究種目	研究課題数			研究経費		1課題当たりの配分額	
	応募 件	採択 件	採択率 %	配分額 千円	平均 千円	最高 千円	
科学研究費	[146,715] 149,805	[76,074] 79,893	[51.9] 53.3	[142,983,832] 145,600,651 [43,611,575]	[1,880] 1,822	[178,200] 208,500	
(1)特別推進研究	[158] 155	[64] 61	[40.5] 39.4	[5,168,000] 4,952,300 [1,485,690]	[80,750] 81,185	[178,200] 208,500	
(2)基盤研究(S)	[988] 1,015	[410] 410	[41.5] 40.4	[11,475,800] 11,534,800 [3,460,440]	[27,990] 28,134	[91,600] 114,000	
(3)基盤研究(A)	[4,046] 4,130	[2,229] 2,201	[55.1] 53.3	[18,913,260] 18,705,400 [5,611,620]	[8,485] 8,499	[35,000] 29,200	
(4)基盤研究(B) ※1	[18,113] 19,573	[9,984] 10,715	[55.1] 54.7	[37,580,338] 39,963,289 [11,987,712]	[3,764] 3,730	[13,400] 13,000	
(5)基盤研究(C)	[71,470] 71,689	[38,630] 39,516	[54.1] 55.1	[38,515,400] 38,246,000 [11,473,800]	[997] 968	[3,100] 3,000	
(6)挑戦的萌芽研究	[7] 1	[7] 1	[100.0] 100.0	[0] 0 [0]	[0] 0	[0] 0	
(7)挑戦的研究(開拓)	[874] 1,815	[256] 356	[29.3] 19.6	[1,416,300] 2,047,300 [614,190]	[5,532] 5,751	[17,500] 19,000	
(8)挑戦的研究(萌芽)	[12,907] 11,740	[3,480] 3,259	[27.0] 27.8	[6,742,200] 6,307,800 [1,892,340]	[1,937] 1,936	[4,800] 4,600	
(9)若手研究(A) ※1	[604] 206	[575] 191	[95.2] 92.7	[1,839,171] 514,778 [154,433]	[3,199] 2,695	[8,800] 7,000	
(10)若手研究(B)	[3,808] 720	[3,808] 720	[100.0] 100.0	[2,657,800] 326,300 [97,890]	[698] 453	[2,200] 2,100	
(11)若手研究	[25,653] 30,310	[13,894] 19,098	[54.2] 63.0	[16,212,700] 19,917,800 [5,975,340]	[1,167] 1,043	[3,200] 3,200	
(12)研究活動スタート支援	[4,686] 5,209	[2,215] 2,853	[47.3] 54.8	[2,207,829] 2,860,400 [858,120]	[997] 1,003	[1,800] 1,100	
(13)奨励研究	[3,401] 3,242	[522] 512	[15.3] 15.8	[255,034] 224,484	[489] 438	[580] 580	
研究成果公開促進費	[1,455] 1,357	[653] 631	[44.9] 46.5	[1,115,630] 1,032,980	[1,708] 1,637	[35,300] 35,300	
研究成果公开发表	[526] 489	[277] 267	[52.7] 54.6	[204,730] 169,680	[739] 636	[8,400] 7,400	
国際情報発信強化	[86] 74	[67] 61	[77.9] 82.4	[340,500] 323,000	[5,082] 5,295	[35,300] 35,300	
学術図書	[722] 690	[258] 256	[35.7] 37.1	[421,100] 400,800	[1,632] 1,566	[8,900] 8,100	
データベース	[121] 104	[51] 47	[42.1] 45.2	[149,300] 139,500	[2,927] 2,968	[7,100] 8,500	
合計	[148,170] 151,162	[76,727] 80,524	[51.8] 53.3	[144,099,462] [42,818,639] 146,633,631 [43,611,575]	[1,878] 1,821	[178,200] 208,500	

(注1) 上段〔 〕内は前年度、下段【 】は間接経費(外数)を示す。

(注2) 基盤研究(C)、挑戦的研究(萌芽)、若手研究、研究活動スタート支援については、基金種目であるため、「配分額」欄及び「1課題あたりの配分額」欄には、令和2(2020)年度の当初計画に対する配分額を計上。

(注3) 「特別研究員奨励費」、基盤研究(B・C)「特設分野研究」、挑戦的研究(開拓・萌芽)「特設審査領域」、「新学術領域研究(研究領域提案型)」は含まない。

なお、基盤研究(B・C)「特設分野研究」の令和2(2020)年度継続分の応募・採択状況は、応募数(181件)、採択数(181件)、配分額(直接経費 449,500千円、間接経費 134,850千円)、

挑戦的研究(開拓)「特設審査領域」の令和2(2020)年度新規・継続分の応募・採択状況は、応募数(96件)、採択数(19件)、配分額(直接経費 106,600千円、間接経費 31,980千円)、

挑戦的研究(萌芽)「特設審査領域」の令和2(2020)年度新規・継続分の応募・採択状況は、応募数(277件)、採択数(83件)、配分額(直接経費 149,900千円、間接経費 44,970千円)であった。

(注4) ※1は、平成24(2012)年度から平成26(2014)年度は一部基金化研究種目であったため、「配分額」欄及び「1課題あたりの配分額」欄の平成24(2012)年度から平成26(2014)年度採択課題は、令和2(2020)年度の当初計画に対する配分額を計上。

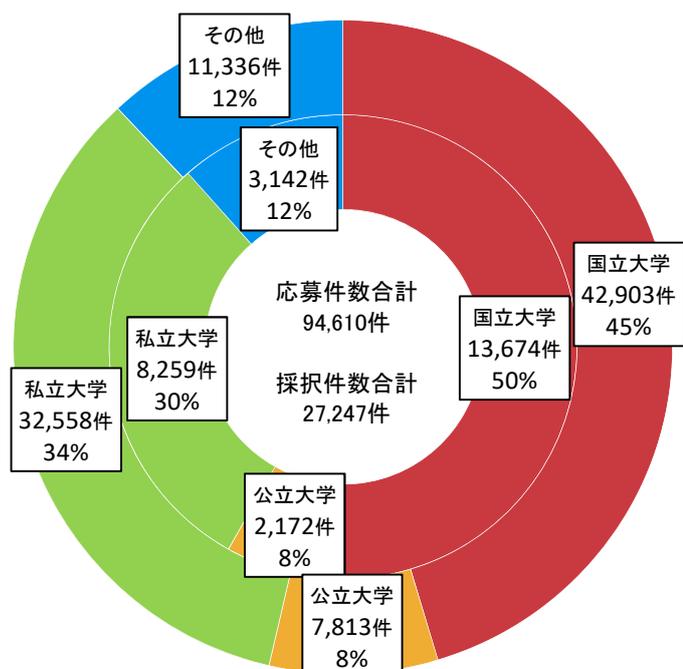
研究機関種別の応募・採択等の状況

区分	応募件数	採択件数	採択率	配分額(千円)	平均配分額(千円)
国立大学	42,903	13,674	31.9%	35,049,400	2,563
公立大学	7,813	2,172	27.8%	3,577,500	1,647
私立大学	32,558	8,259	25.4%	12,801,900	1,550
その他	11,336	3,142	27.7%	7,445,500	2,370
短期大学、 高等専門学校	3,086	437	14.2%	636,200	1,456
大学共同利用機関法人	893	280	31.4%	1,175,900	4,200
国公立試験研究機関	1,087	371	34.1%	610,100	1,644
特殊法人、 独立行政法人等	5,341	1,791	33.5%	4,346,300	2,427
一般社団法人、 一般財団法人	761	226	29.7%	490,700	2,171
企業等の研究所	168	37	22.0%	186,300	5,035
合計	94,610	27,247	28.8%	58,874,300	2,161

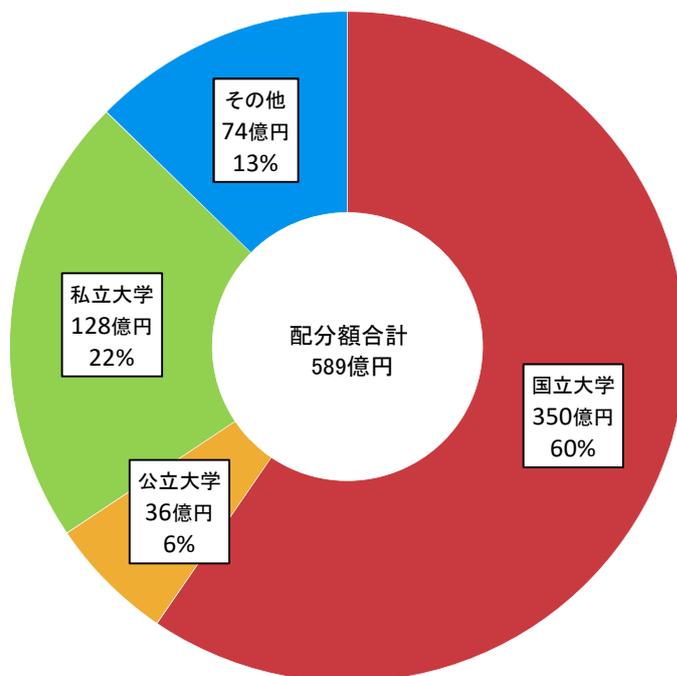
※対象:「特別推進研究」、「基盤研究(S・A・B・C)」、「特設分野研究」を除く、「若手研究」、「挑戦的研究(開拓・萌芽)」、「研究活動スタート支援」

応募・採択件数

※外円は応募件数、内円は採択件数



配分額

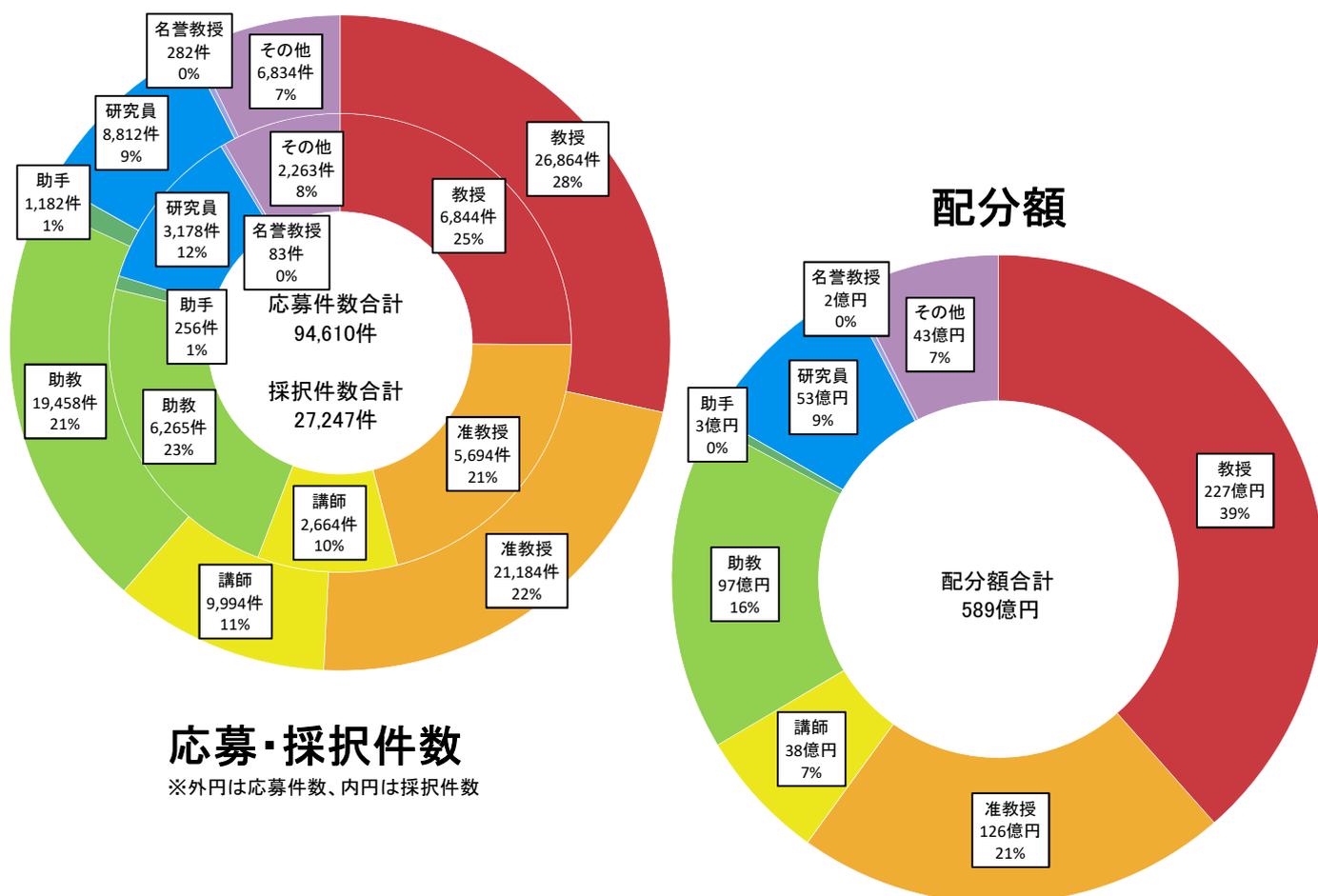


※円グラフに表示されている割合・値については、四捨五入のために、合計が100%や合計値にならないことがある。

職種別の応募・採択等の状況

区分	応募件数	採択件数	採択率	配分額(千円)	平均配分額(千円)
教授	26,864	6,844	25.5%	22,679,100	3,314
准教授	21,184	5,694	26.9%	12,600,400	2,213
講師	9,994	2,664	26.7%	3,843,600	1,443
助教	19,458	6,265	32.2%	9,680,500	1,545
助手	1,182	256	21.7%	285,600	1,116
研究員	8,812	3,178	36.1%	5,285,300	1,663
名誉教授	282	83	29.4%	166,000	2,000
その他	6,834	2,263	33.1%	4,333,800	1,915
合計	94,610	27,247	28.8%	58,874,300	2,161

※対象:「特別推進研究」、「基盤研究(S・A・B・C)」、「特設分野研究」を除く、「若手研究」、「挑戦的研究(開拓・萌芽)」、「研究活動スタート支援」

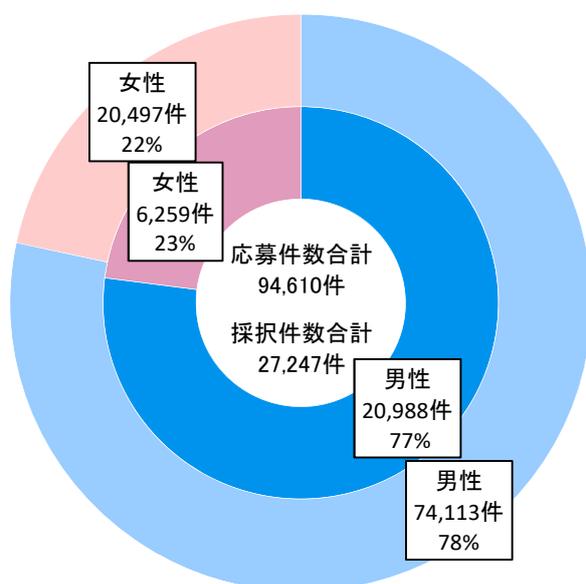


※円グラフに表示されている割合・値については、四捨五入のために、合計が100%や合計値にならないことがある。

男女別の応募・採択等の状況

区分	応募件数	採択件数	採択率	配分額(千円)	平均配分額(千円)
男性	74,113	20,988	28.3%	49,858,800	2,376
女性	20,497	6,259	30.5%	9,015,500	1,440
合計	94,610	27,247	28.8%	58,874,300	2,161

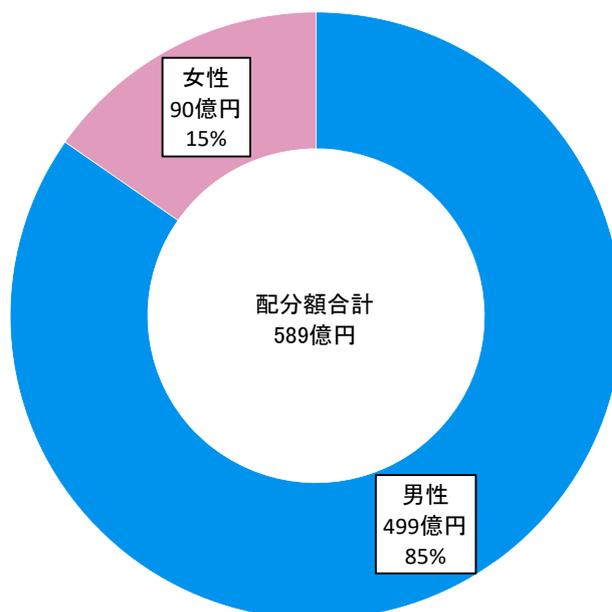
※対象:「特別推進研究」、「基盤研究(S・A・B・C)」、「特設分野研究」を除く、「若手研究」、「挑戦的研究(開拓・萌芽)」、「研究活動スタート支援」



応募・採択件数

※外円は応募件数、内円は採択件数

配分額

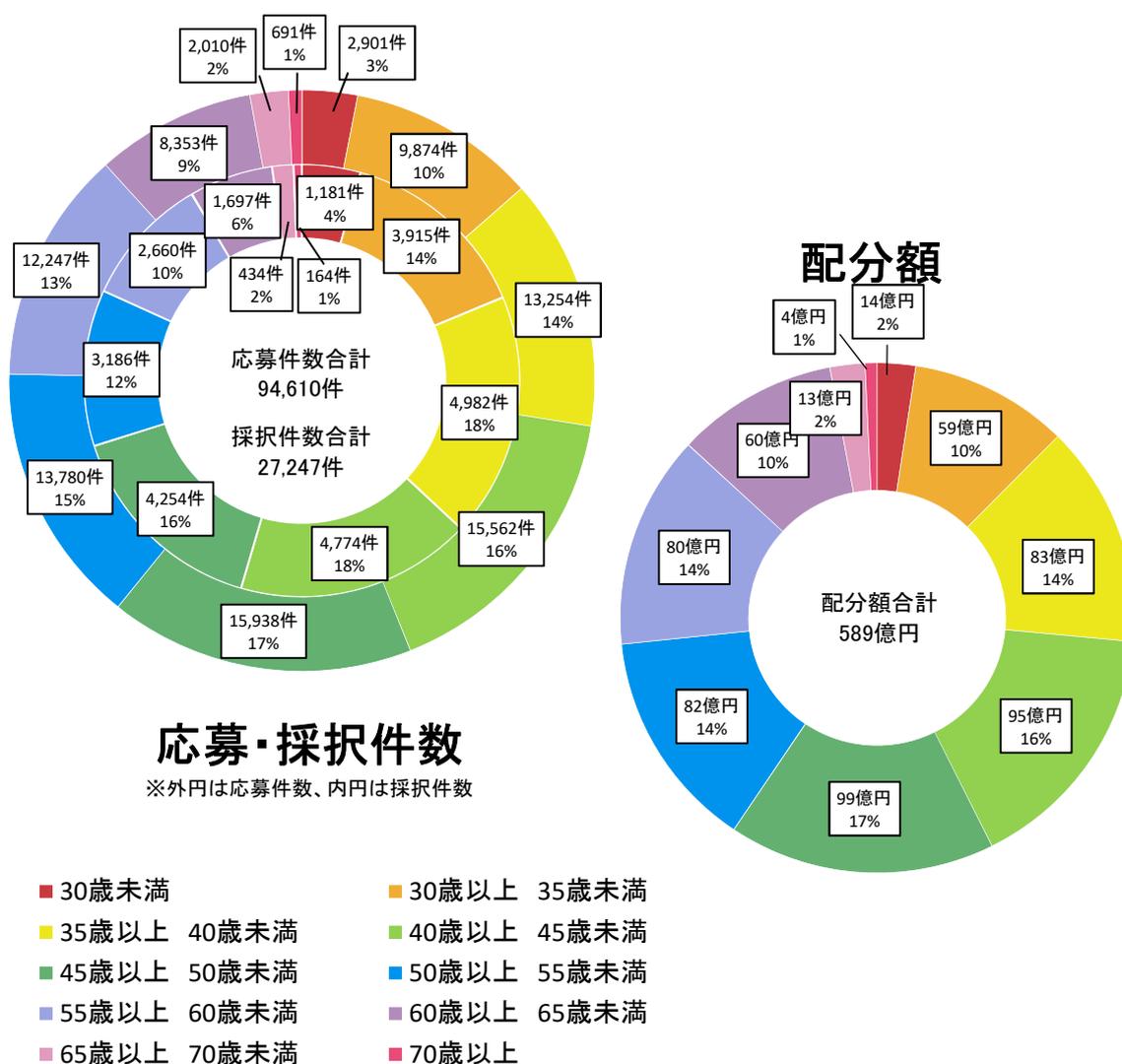


※円グラフに表示されている割合・値については、四捨五入のために、合計が100%や合計値にならないことがある。

年齢別の応募・採択等の状況

区分	応募件数	採択件数	採択率	配分額(千円)	平均配分額(千円)
30歳未満	2,901	1,181	40.7%	1,427,100	1,208
30歳以上 35歳未満	9,874	3,915	39.6%	5,872,600	1,500
35歳以上 40歳未満	13,254	4,982	37.6%	8,294,500	1,665
40歳以上 45歳未満	15,562	4,774	30.7%	9,503,900	1,991
45歳以上 50歳未満	15,938	4,254	26.7%	9,884,200	2,324
50歳以上 55歳未満	13,780	3,186	23.1%	8,210,500	2,577
55歳以上 60歳未満	12,247	2,660	21.7%	7,953,700	2,990
60歳以上 65歳未満	8,353	1,697	20.3%	5,990,400	3,530
65歳以上 70歳未満	2,010	434	21.6%	1,291,800	2,976
70歳以上	691	164	23.7%	445,600	2,717
合計	94,610	27,247	28.8%	58,874,300	2,161

※対象:「特別推進研究」、「基盤研究(S・A・B・C)」、「特設分野研究」を除く、「若手研究」、「挑戦的研究(開拓・萌芽)」、「研究活動スタート支援」



※円グラフに表示されている割合・値については、四捨五入のために、合計が100%や合計値にならないことがある。